

## 2月17日(月)朝会講話 「マン・マン・マンのズン・ズン」

平山 この物語は、からだにとげのあるヤマアラシの「山りん(平山)」と「アランちゃん(内藤)」の二匹の物語である。

平山、内藤 **面をかぶる**

平山 「寒い寒い冬の朝」「僕は山りん。けっこう、寒がりなんだ。あー、今日は冷える！  
こんなに寒くちゃ、一匹では耐えられないよ」

内藤 「私は、アランちゃん。孤独だわ。一人ぼっちは、いや、一匹ボッチは寂しいわ。寒  
いし・・・」

平山、内藤 「あっ！ アランちゃん！山りん！！(同時に)」

内藤 「わたし、寒い・・・」

平山 「僕があたたためてあげる」 **手をにぎる**

内藤 「あたたかい。山りんの暖かさが伝わってくるわ」

平山 「アランちゃんもあたたかいよ。もっと、近くに おいでよ」 **抱き合う。その瞬間！**

内藤 「痛い！痛い！刺さった。針がささった」

平山 「痛って！！針、針、針！」 **二匹はなれる。**

内藤・平山 「寒い、寒い、耐えられない！」 **少しずつ近づくと、手を握る、肩を組む**

内藤 「あつたかいわ。相手を傷つけない、ちょうど良い距離感であるのね」

平山 「そうだね。でも、それは針の長さによって違うから、くっついたり、離れたりして見  
つけていくんだよ」

内藤 「この前、人間の子供たちがケンカしていたけれど、近づきすぎたのかしら？」

平山 「そうだね、あんまり無謀な近づき方は、相手も苦しいし、自分も苦しくなるよね」

内藤 「ちょうど良い距離感ね」

平山 「そうだね、それは人によって違うから、毎日の学校生活の中で経験を通して学んでい  
くんだよ」

内藤 「人は一人では生きていきません。互いにかかわりあう中で自分を磨き、集団としての  
力を高めていきます」

平山 「ヤマアラシも一匹ボッチでいると寒くて、孤独で、耐えられません。そうした時には  
ごく自然に近づきます」

内藤 「さあ、西中学校のみなさん。隣の人と温めあいましょう。」

**フロアみんなで、肩を組む！**